

# 擧

～けやき～

成田市立中台中学校 学校だより  
文責：内田 淳  
令和6年 5月2日(木) Vol.05

学校教育目標 『自ら学び、豊かな心を持ち、たくましく生きる生徒の育成』

「仲間も自分も大切に」「感動・感謝を大切に」  
「団結・協力を大切に」「命を大切に」



【ホームページへ】

## 春の大会から得たものは

4月13日(土)から、毎週末になると、郡内のどこかで、本校の運動部が大会に参加し、活躍していました。バスケ部のように勝ち上がった部もあれば、もう一步のところまで……という部もあります。また、部としては上位に進めなかったけれど、プレーやメンタルなどの、自分の課題に取り組むことができた、という人もいることでしょう。結果や、そこから得る思いはそれぞれですが、誰もが全力でプレーし、応援したことは、紛れもない事実です。



【女子テニス部は、2回戦まで進出。諦めず食い下がりました】



【男子テニス部は、初戦で惜敗。懸命にボールを追いかけてました】



【サッカー部は惜しくもトーナメント進出を逃しましたが、いいプレーでした】



【陸上部は自己記録を更新する人が続出。〇〇さんは砲丸投げで郡1位です】



【女子卓球部は郡6位。惜しくもあと一息で県でした。個人戦では〇〇さんが32位】



【男子卓球部は初戦で惜敗。積極的にプレーしていました】



【バレー部は初戦で惜敗。声を出し、支え合うプレーが印象的でした】



【バスケ部は激闘の末、郡4位入賞。県大会への弾みがつきます】

絶対に勝てる自信や保証はないけれど、だからと言って、初めから負けるつもりで対戦する人はいません。自分を信じて、仲間を信じて、誰もが頑張っています。

選手の数を決まっており、全員が出場できるわけではありません。補欠や応援の仲間が、全ての試合会場にいました。ベンチから選手を見つめ、一生懸命声援を送り、励ましたり盛り上げたりしていました。そのように支え合って、ここまでできたのでしょう。

どの会場でも、ベンチにいる仲間の方まで頑張る選手と、思いを託して選手を応援するベンチの仲間とが一体になって、競技に臨んでいました。選手も、応援も、それを支えた保護者の皆さんも、お疲れ様でした。

これからも、全力で取り組む機会を大切にするとともに、その機会を通して、成長を実感できるような場面を、部活動でも、それ以外の活動でも、積極的に展開していきたいと考えます。

## 体育祭まであと18登校日



【体育祭実行委員会は、3年生が1、2年生に、考え方や話し合いの進め方を説明しました。簡潔でわかりやすい説明ぶりに、1、2年生は「台本やメモもないのに、しっかり話すことができすぎて、内容がよく分かりました」と感動していました】

【応援団は、リーダーとしての心得を読んで、その責任の重さを噛みしめました】

4月25日(木)、体育祭に向けて、実行委員会と応援リーダーがそれぞれ集まって、会議を行いました。この会議では、顔合わせや役割分担も行い、リーダーの意味について、全員で確認しました。

体育祭は、全校が一丸となって取り組む行事です。そのリーダーには、集団をまとめたり引っ張ったりする力と、率先して動く姿勢と、わかりやすい指示や前向きな雰囲気を保つための気配りなど、様々な力を発揮できるよう期待が集まります。もちろん、それを全て一人でやるのではなく、実行委員会と応援リーダーが、力を合わせて進めていきます。また、リーダーを支える仲間の存在も欠かせません。

紅組も白組もお互いに競い合って、励まし合って、盛り上がり、終わったあとで一人ひとりがさらに成長できる……そんな行事であってほしいと、心から願っています。

## 授業参観を終えて



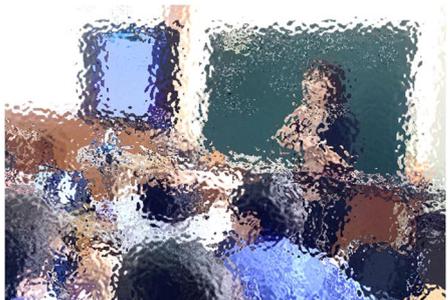
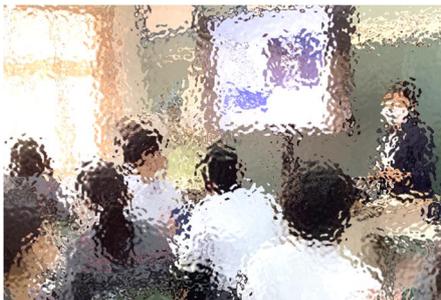
【空組は、タブレットを使って英語の授業。今の気分を言い表します】



【3A、3Bは、高校調べを実施。既に決めている人も、これから決めようという人も、興味を持って活動していました。入試まで、まだ？もう？10ヶ月弱】



【2A、2Bは、「どんな自分になりたいか」がテーマ。リーダー、ムードメーカー、調整役、気配りできる人など、集団の中で、自分の目指す姿について考えました】



【1Bの音楽は、身近な言葉を音符で言表す活動。「雨」はミド？ドミ？】



【1Aは英語で自己紹介カードを交換。保護者も一緒に活動し、ほのぼのとした雰囲気】

4月26日(金)の授業参観・部活動保護者会には、多数の方にご来校いただき、ありがとうございました。生徒は、緊張する様子もなく、ほほいつもどおりの姿で、授業や部活動に取り組んでいました。

授業中の生徒の様子を見ると、挙手・発言をするほかに、話をうなずきながら聞いたり、気の利いた発言に笑ったり拍手を送ったりと、様々な姿で参加し、コミュニケーションを取っていることが分かります。教科によって、得手・不得手はもちろんあるでしょうが、みんなが学ぶことの楽しさを感じ、学び合い高め合える活動を、これからも進めていきたいと考えます。また、授業で学んだことが、生徒の将来を考えるきっかけになったら、これほどうれしいことはありません。